

Next Action



始原
玉川せせらぎホール



SANKYOKU 2022
宇都宮市文化会館小ホール



KOTO-NOBU-LOG.



©TAMAKI YOSHIDA

久々の秋

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、そして芸術の秋、秋は物事に打ち込むのに最適な季節とされています。私にとって、この10月はリトアニア公演、尺八演奏家・中村仁樹さんのCD発売記念公演、その他にクローズドコンサートの依頼、それらのリハーサル、そして各地への移動など、コロナ禍前の様なスケジュールになり、本当に嬉しいです！また、昨年の東京オペラシティ「音楽のたまて箱」公演をきっかけに結成した「J-TRAD ensemble-MAHOROBA」も、11月10日（木）第一回の自主公演に向けて本格的に始動しました。久々のシーズン始まりです！

3年ぶりの海外公演！

3年ぶりの海外公演でリトアニア・ヴィリニウスに行ってきました。行きは乗り継ぎ空港からリトアニアへの便が変更になり、楽器を預けられる航空会社が限られる私は、1乗り継ぎのイスタンブール空港で11時間待ちを過ごし、映画『ターミナル』（スティーヴン・スピルバーグ/2004）の気分を味わいましたが、3年ぶりの海外を満喫してきました。



公演は、1922年の設立から100周年を迎えた国際現代音楽協会（ISCM）によるヴィリニウス公演で、フェスティバル会期中はリトアニア音楽演劇大学を中心にワークショップ、会議、コンサートが開催されていました。その様な中、私は日本作曲家協議会（JFC）

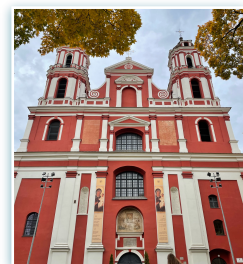


によるリトアニア音楽家との交流、日本人作曲家の堀越隆一、小西奈雅子、山本純ノ介作品の紹介という主旨で開催された交流コンサートにて、現地の弦楽四重奏団 Cordos Quartet との共演を含め出演しました。当日は、音楽家はもちろん、学生、子供から年配の市民の方まで、沢山の方が熱心に聴いてくださり、公演後には楽器の写真撮影、質問など、「各国に残る箏曲をつくる」という20代の時の思いが改めて強く湧いてきた1日となりました。



滞在中は、パイプオルガン製作者の広大で、優雅な工房見学へ連れて行って頂い

たり、ホテル近辺を散策し、ツェッペリーニを食べたりしました。ツェッペリーニは、マッシュ状と生のじゃがいもをこね合わせた大きな団子の中に、餃子の具の様な（リトアニアの方に言ったら、餃子の具とは全然違う！と言われましたが...）挽肉が入った郷土料理で、サワークリームがかかっていて食べ応え満点！お店によっても具やクリームの味付けが違い、とても美味しかったです。リトアニアの音楽家との交流は来年3月まで継続し、伝統楽器カンクレスとの新作を初演予定です。また順次、ご案内したいと思います！



J-TRAD ensemble-MAHOROBA concert vol.1

始原 本條秀太郎現代作品により“はじまりはじまる”

【とき】2022年11月10日（木）18:30開場/19:00開演

【ところ】玉川総合支所 1階 玉川せせらぎホール（大井町線「等々力」駅よりすぐ）

【特別出演】本條秀太郎（唄・三味線）

【客演】安江佐和子（マリンバ）

【チケット】一般¥4,000/学生2,500（全席自由）

カンフェティでのチケットWeb購入も可能！

<https://www.confetti-web.com/detail.php?tid=69133&>